

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名: 特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお

1. 事業の概要

事業名称	多文化共生のまちづくり「あいうえお子育てネット～但馬をつなぐ～」
事業の目的	但馬地域在住の外国にルーツを持つ母親と子どもが安心して暮らしていけるよう、地域における日本語教育の支援体制の整備する。また、その必要性を行政、教育現場、地域住民に理解してもらい、多文化共生のまちづくりを推進する。更に、たじま多文化共生ネットワーク(平成29年度文化庁委託事業:但馬地域3市2町在住外国人担当課と日本語支援団体のネットワーク)を活用し、市町の枠を超えて連携することで、より良い日本語教育の機会の提供と支援体制の構築を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	但馬地域には1,300人を超える外国人が散住しているが、日本語教育を受ける機会に恵まれない人が大勢いる。アジア圏出身の日本人配偶者として来日する女性が多く、それに伴い外国にルーツを持つ子どもの数が増えている。当法人の生活相談窓口には、子育てに関する悩みが多く寄せられ、子どもの日本語教育支援の充実と母親への子育て支援が急務である。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	1.子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室(週1回2時間) 子育てをしている母親を対象に日本語教室を実施した。「学校や地域の配布物を読む」「連絡帳を書く」等を目標にし、子育てに積極的に関わられるよう日本語力の向上に努めた。 2.但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備 但馬地域の日本語教室の代表が集まるネットワーク会議を年に2回開催した。各地域の課題を共有し、意見交換するなど、教室間の連携、協力を図り、日本語学習希望者の受け入れ体制づくりに取り組んだ。外国人保護者向けの「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を6言語(やさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、韓国語)で作成し、各市町の外国人担当課や日本語教室に配布した。 3.多文化共生のまちづくりのためのセミナー セミナー①「外国人の受け入れと入管法改正」講師:田村太郎氏(一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事) 日本語支援者、教職員、地域住民等とともに、多文化共生の地域づくりのポイントなどを学んだ。 セミナー②「外国にルーツを持つ子どもたちを地域でどう支えますか。～子ども×やさしい日本語×日本語学習支援～」 講師:安田乙世氏(NPO法人おおさかこども多文化センター理事) 外国にルーツを持つ子どもの教育支援の方法について学んだ。 4.子どもの就学や進学に必要な言葉を学ぶ教室 外国にルーツを持つ保護者が子どもの就学・進学のために必要な日本語を学んだ。文化や習慣の違いによる誤解を防ぎ、円滑に学校生活を送れるようにした。
事業の実施期間	令和元年5月10日～令和2年3月19日(9か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	河本美代子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
2	岸田尚子	特定非営利活動法人にほんご豊岡あいうえお
3	村上由記	(公財)兵庫県国際交流協会
4	稲垣萌	子ども多文化共生サポーター
5	大坂和代	豊岡市役所秘書広報課
6	中井亜希子	朝来市市長公室秘書広報課
7	藤原圭太	養父市企画総務部企画政策課
8	松井範好	香美町企画課
9	田中雄大	新温泉町商工観光課
10	齋藤直紀	兵庫県但馬県民局地域政策室



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年6月27日(木) 13:30～15:30	2時間	あいうえお事務所	河本美代子、岸田尚子 村上由記、稲垣萌 大坂和代、藤原圭太 松井範好、田中雄大 齋藤直紀、勝間良枝 卯野敦子	取組1:日本語教室の実施状況、学習者の募集法について 取組2:進学チャート多言語版(仮)の内容について 取組3:セミナーの内容や開催日時、周知や参加者の募集について 取組4:ワークショップの周知と参加者の募集について その他:地域の現状や課題について意見交換
2	令和元年12月12日(木) 10:00～12:00	2時間	あいうえお事務所	河本美代子、岸田尚子 村上由記、稲垣萌 大坂和代、中井亜希子 松井範好、齋藤直紀 勝間良枝、卯野敦子	取組1:日本語教室の実施状況について 取組2:子育てチャート多言語版のレイアウトや内容について 取組3:セミナーの実施報告、アンケート結果など 取組4:ワークショップの周知と参加者の募集について
3	令和2年3月12日(木) 13:30～15:30	2時間	あいうえお事務所	河本美代子、岸田尚子 村上由記、稲垣萌 大坂和代、中井亜希子 松井範好、齋藤直紀 勝間良枝、卯野敦子	取組1～取組4:各取組の報告 来年度の活動について

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	●豊岡市役所、朝来市役所、養父市役所、香美町役場、新温泉町役場:運営委員会において、地域の外国人の現状や課題を共有し、市町を超えて支援にあたった。日本語教室やセミナーの案内、情報発信等を行った。 ●朝来市連合国際交流協会あさご日本語教室、養父市国際交流協会やぶ日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタ、豊岡市国際交流協会とよおか日本語教室、京丹後市国際交流協会Kia日本語教室:日本語教室に関する課題や情報の共有、イベントやセミナーに関する情報の発信等を行った。 ●(公財)兵庫県国際交流協会、兵庫日本語ボランティアネットワーク、兵庫県但馬県民局:セミナーの案内、情報発信及び成果物の共有などを行った。専門家と連携して解決にあたった。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	すべての取組:(事務局)岸田尚子、河本美代子、勝間良枝、卯野敦子 取組1:(日本語指導)河本美代子、近藤厚子、田中那都子、(事務作業補助)1名 取組2(会議出席)但馬地域の日本語教室の代表者、(翻訳者)5名(5言語) 取組3:(セミナー講師)田村太郎、安田乙世、(補助者)4名 取組4:(日本語指導)近藤厚子、河本美代子、(補助者)勝間良枝、卯野敦子
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室									
取組の目標		子育てや学校の言葉を学ぶ日本語教室									
取組の内容		●週1回2時間のクラスを実施した。 ●複数の支援者で指導にあたった。 ●学校からもらってくる手紙が読めるように、ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きを中心に学んだ。 ●手紙でよく使われる敬語、語彙、表現パターンなどを学び、自分でおおまかな意味を理解できるようにした。 ●連絡帳やアンケートなどで、自分の言いたいことが伝えられるように、文章を書く練習をした。 ●先生や他の保護者とのコミュニケーションが円滑になるように、会話の練習を行った。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		外国人の母親がこの教室で学ぶことで日本語力が向上し、学校や子育てについての知識も深まり、学校や地域の子ども会などの行事に積極的に参加したいという気持ちが出てきた。行事に母親が参加することで地域の人や他の子どもの保護者、教職員らと顔の見える関係を築くことができた。交流を通じて、彼女たちの子育てにおける困りごとや必要としている支援について知ってもらうことができ、より良い支援ができるようになった。									
取組による日本語能力の向上		ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きの習得が進み、学校や地域からの配布物が読めるようになった。自分の伝えたいことが書けるようになった。先生、他の保護者、近隣住民とのコミュニケーションが円滑に行えるようになった。									
参加対象者		外国にルーツを持つ母親						参加者数 (内 外国人数)		9人(9人)	
広報及び募集方法		各市町広報誌、ホームページ、フェイスブック、フリーペーパー、チラシ配布、口コミなど									
開催時間数		総時間 80時間				内訳 2時間 × 40回					
主な連携・協働先		豊岡市、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハビタン									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	2			3	1				3		
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年5月16日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
2	令和元年5月23日(木) 13:30～15:31	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
3	令和元年5月30日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
4	令和元年6月6日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 近藤厚子	田中那都子		
5	令和元年6月13日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 近藤厚子	田中那都子		
6	令和元年6月20日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 近藤厚子	田中那都子		
7	令和元年6月27日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		近藤厚子 田中那都子			
8	令和元年7月4日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
9	令和元年7月11日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
10	令和元年7月18日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
11	令和元年7月25日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		
12	令和元年8月8日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 近藤厚子	田中那都子		
13	令和元年8月22日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 近藤厚子	田中那都子		
14	令和元年8月29日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	5	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		近藤厚子 田中那都子			
15	令和元年9月5日(木) 13:30～15:30	2	あいうえお教室	4	学校の手紙 漢字学習	・学校からの配布物を読む ・漢字の練習教材で、個別に漢字の学習(かんじだいすき 総まとめ問題集N3語彙他)		河本美代子 田中那都子	近藤厚子		

[illegible]

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第13回 令和元年8月22日】 参加者5人(出身国:中国、フィリピン、ベトナム)
3グループに分かれて学習した。
グループ1 みんなの日本語Ⅱ:学習者がまもなく出産予定ため、出産や入院に関する用語について勉強した。
グループ2 総まとめ問題集N3語彙:仕事のために、日本語能力試験のN3取得を目指し勉強した。
グループ3 数字、ひらがな:来日して間もない学習者のため、ひらがなと数字、あいさつなどを勉強した。
帰国のため、この日が最後になる学習者がいたので、参加証を渡し、送別会をした。



○取組事例②

【第15回 令和元年9月5日】 参加者4人(出身国:中国、ベトナム、フィリピン)
3グループに分かれて学習した。
グループ1 かんじ大好き3年生:漢字の読み方(音訓)を覚える。自由作文を作る。課ごとにまとめの試験をした。
グループ2 学校の手紙(スポーツ大会)を読んだ。
グループ3 みんなの日本語Ⅰ:自己紹介、名詞文を勉強した。
学習者が母国の教育事情について日本との違いを話した。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・複数の支援者で指導にあたったことで、レベルやニーズの異なる学習者にも適切に対応することができた。
- ・学校からの配布物が読めるようになり、学校行事への理解・関心が高まった。
- ・日本語能力の向上により、職場の人との会話がスムーズになった。
- ・子どもと自分の名前が書けるようになり、名前を書く機会があっても対応できるようになった。
- ・母親が漢字が読めるようになり、子どもの宿題の手助けができるようになった。
- ・日本語で運転免許の試験を受け、合格することができた。
- ・懇談会などで、先生や他の保護者とコミュニケーションが取れるようになった。
- ・学習者同士が交流し、ほっとできる居場所になった。
- ・「日本語の勉強は子育てにとっても役に立った」という声があった。

(3) 今後の改善点について

- ・学習が続けられなくなった人たちの理由を確認し、その人たちが続けて学習できるように対処法を考える。
- ・家庭や会社など、学習者を取り巻く人たちに日本語学習の大切さを理解してもらえるように働きかける。

＜取組2＞											
取組の名称		但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備									
取組の目標		●但馬地域(3市2町)の日本語教室の代表者が集まり、情報を共有し、課題解決を図る。 ●日本語指導、教室運営などについて意見を交換する。 ●外国にルーツを持つ子どもの日本語教育に必要な資料を多言語化する。 ●あいうえお子育てネットの取組及び各地域の日本語支援に関する情報を広く発信する。									
取組の内容		●たじま多文化共生ネットワーク会議を開催(年2回)し、子育てネットの取組の紹介と各日本語教室の情報を共有した。 ●平成30年度の会議で挙げられた課題の解決方法を考えた。 例:子どもの教育支援、ボランティアの不足等 ●ネットワークを通じて情報を発信し、セミナー等への参加を呼びかけた。 ●外国にルーツを持つ母親と子どものために「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を6言語(やさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、韓国語)で作成した。 ●「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を各市町の窓口や日本語教室などで配布するとともに、教育委員会を通じて但馬地域の小中学校の該当者に配布を依頼した。 ●取組3「多文化共生セミナー」において、あいうえお子育てネットの取組を紹介した。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		たじま多文化共生ネットワークを通じ、それぞれの地域の情報や教室の実施状況などを把握し、学習者の支援が適切に行われる受入れ体制の拡充に努めた。「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」の作成にあたり、豊岡市教育委員会にも協力を得た。									
取組による日本語能力の向上											
参加対象者		日本語教育支援者、行政職員、外国人住民他					参加者数 (内 外国人数)		15人(5人)		
広報及び募集方法		個別に開催通知の発送									
開催時間数		総時間 4 時間					内訳 2 時間 × 2 回				
主な連携・協働先		あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、 香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	2			1					1	9	
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年7月29日(月) 15:30～17:30	2	あいうえお事務所	7	第1回 たじま多文化共生 ネットワーク会議	・文化庁委託事業の取組内容について ・子育てチャートについての意見交換 ・各教室の現状報告など			河本美代子、岸田尚子、勝間良枝 卯野敦子、小田垣真弓、稲葉康介 西村美幸		
2	令和2年1月29日(月) 14:00～16:00	2	あいうえお事務所	8	第2回 たじま多文化共生 ネットワーク会議	・文化庁委託事業の進捗状況 ・子育てチャートの最終確認 ・各教室の現状報告			河本美代子、岸田尚子、勝間良枝 山田稔、小田垣真弓、本多秋香 稲葉康介、西村美幸		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

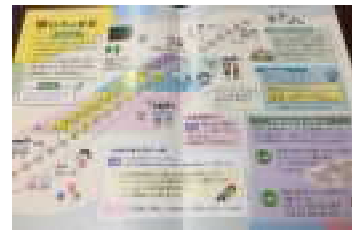
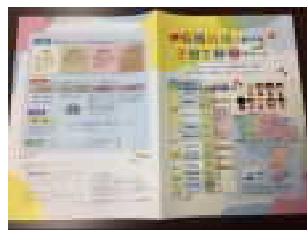
○取組事例①

【第1回 たじま多文化共生ネットワーク会議】 令和元年7月29日(月曜日)午後3時30分～午後5時30分
・今年度のあいいうお子育てネットの活動について説明した。
・多文化共生のまちづくりのためのセミナーの周知を依頼した。
・「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」の内容や構成について意見を出し合い、但馬地域の高校や入試状況について情報を共有した。
・各教室の現状や課題解決の方法について意見を出し合った。



○取組事例②

【第2回たじま多文化共生ネットワーク会議】 令和2年1月29日(月曜日)午後2時～午後4時
・「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」の内容を吟味した。
・取組4ワークショップの周知を依頼した。
・各教室の現状と課題を共有した。



(2) 目標の達成状況・成果

＜ネットワークについて＞

・但馬地域3市2町の日本語教室の情報共有やセミナーなどへの周知・案内が容易になった。
・新温泉町の日本語教室から依頼を受け、あいいうお教室の支援者が講師となり、ボランティアの勉強会(全2回)を実施した。その結果、勉強会に参加した人が日本語ボランティアの活動に参加するようになったとの報告を得た。
・「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」作成に当たり、たじま多文共生ネットワーク会議で但馬地域の高校進学に関する詳しい情報や意見を得、チャート作成に活かすことができた。
・各教室の外国にルーツを持つ子どもの状況や支援の取り組みなどがよくわかった。

＜「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」について＞

・口頭の説明だけではわかりにくが、チャートにすることにより、可視化できるようになり、理解しやすくなった。

(3) 今後の改善点について

・やさしい日本語だけでは伝えきれない部分があるため、できるだけ多くの人に理解してもらうためには対応言語を増やす努力をしていきたい。

＜取組3＞										
取組の名称		多文化共生のまちづくりのためのセミナー								
取組の目標		●地域住民、行政職員、教職員、日本語支援者などが在住外国人の現状を把握し、「多文化共生」に関する知識を得ることで、今後のより良い支援につなげる。 ●外国にルーツを持つ子どもの日本語支援者を増やす。								
取組の内容		①セミナー「外国人の受け入れと入管法改正」 講師：田村太郎氏（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事） ・日本語支援者や地域住民等とともに、多文化共生の地域づくりのポイントなどを学んだ。 ・行政職員の研修を兼ねて、豊岡市と共催で行った。 ②セミナー「外国にルーツを持つ子どもたちを地域でどう支えますか。～子ども×やさしい日本語×日本語学習支援～」 講師：安田乙世氏（NPO法人おおさかこども多文化センター理事） ・外国にルーツを持つ子ども教育支援の方法について学んだ。 ・豊岡市教育委員会の協力を得て、幼保園、小・中学校の教職員に参加を呼びかけた。 ・外国にルーツを持つ子どもの支援方法についてアドバイスを受けた。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		多文化共生について学ぶことで、文化や言語の違いによって起こるトラブルを減らし、同じ地域住民として顔の見える関係を築く大切さを認識した。外国にルーツを持つ子どもたちの現状を理解し、日本語支援の必要性を知ってもらうことができた。								
取組による日本語能力の向上										
参加対象者		日本語支援者、教職員、行政職員、地域住民他				参加者数 (内 外国人数)		118人(4人)		
広報及び募集方法		チラシの送付・掲示、電話案内、ホームページ・フェイスブックでの告知								
開催時間数		総時間 6時間				内訳 3時間 × 2 回				
主な連携・協働先		各市町、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
						1			3	114
	※該当する場合のみ									
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2元年9月26日(木) 13:30～16:30	3	豊岡市役所	73	多文化共生セミナー	多文化共生のためのまちづくりについて		田村太郎		
2	令和元年11月16日(土) 13:30～16:30	3	市民プラザ	45	多文化共生セミナー	外国にルーツを持つ子どもの教育支援について		安田乙世		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【令和元年9月26日(木)午後1時30分～午後4時30分】

「多文化共生とまちづくりのためのセミナー 外国人の受け入れと入管法改正 ～多文化共生のまちづくりに向けた課題と可能性～」

講師: 田村太郎氏(一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事)

・開会のあいさつ(豊岡市長中貝宗治氏)

・講演の主な内容

多文化共生の基礎知識、日本で暮らす外国人の概要、改正入管法の施行と新たな外国人の受け入れ、諸外国での外国人受け入れをめぐる動き、これからの地域に求められる取組など

・質疑応答、アンケート記入



○取組事例②

【令和元年11月16日(土)午後1時30分～午後4時30分】

「外国にルーツを持つ子どもたちを地域でどう支えますか ～子ども×やさしい日本語×日本語学習支援～」

講師: 安田乙世氏(NPO法人おおさかこども多文化センター理事)

・開会のあいさつ(豊岡市長中貝宗治氏)

・講演の主な内容

外国にルーツを持つ子どもたちのことを知る。子どもたちの置かれている状況を知り、気持ちを理解する。支援のポイント(大人への支援との違い)、やさしい日本語について知る。

・ワークショップ

非言語コミュニケーションによるグループ分け体験、やさしい日本語など

・質疑応答、アンケート記入



(2) 目標の達成状況・成果

セミナー①(詳しいアンケート内容については別紙参照)

・行政職員の研修を兼ねて、豊岡市と共催で行うことができ、豊岡市長をはじめ、市議会議員、行政職員、地域住民支援者などが一堂に会し、多文化共生について学び、共に考える機会になった。

・技能実習生を受け入れている企業の人から、「未来を見据えた外国人との共生施策が企業としても必要だとわかった。」「今後のどのように実習生を受け入れるのかを考えていきたい」という声があった。

・アンケートでは、理解度「よくわかった」44/47人 有益度「参考になる」46/47人という回答が得られた。

・コメント欄には、「自分の持っている多文化共生のイメージはずいぶん偏った間違っただけのものということがわかった。多文化共生の大切さと施策の必要性を感じた。自治体ができることは何かを考えさせられた。新たな視点を持つことができた」などの感想が多く寄せられ、今後のまちづくりに大いに役立つ内容のセミナーとなった。

セミナー②

・豊岡市教育委員会の協力により、豊岡市内の全ての幼保園、小・中学校に案内を配布し、参加を呼びかけることができた。

・豊岡市長をはじめ、市議会議員、外国にルーツを持つ子どもが在籍する学校関係者、日本語学習支援者、また外国にルーツを持つ子どもの保護者、地域住民など様々な立場の人が参加し、子どもの支援についての理解を深めた。

・ワークショップを通じ、参加者同士で意見を交換し、多様な立場からの子ども支援に関する考え方や取組などを知ることができた。

・外国にルーツを持つ子どもが抱える課題や日本語学習・教科学習指導に関する留意点などを、具体例と共に学んだ。

・外国にルーツを持つ子どもの担任教諭から、「普段の子どもとの関わりにおいて、セミナーで学んだ内容はとても役に立っている。一番困っているのは子どもだ」という講師の言葉が忘れられない。」という声があった。

・アンケートでは、「非常に理解できた」と「理解できた」という回答が大部分を占めており、大変満足度の高い内容となった。

・コメント欄には「日本語を外国語として客観的にとらえることが大事だとわかった。普段当たり前に考えていることも、それがわからない人がいるという視点を持つことが大事だ」ということがわかった。支援の参考になることがたくさんあった」などの感想が寄せられた。

(3) 今後の改善点について

・できるだけ多くの人に参加してもらいたいため、周知の方法を検討する。

・早い段階から参加しやすい日程を綿密に調整する。

＜取組4＞											
取組の名称		将来に向けて母親と子どもが笑顔で取り組むワークショップ									
取組の目標		●教育委員会と連携し、外国にルーツを持つ保護者と子どもが就学・進学に必要な日本語を学ぶ。 ●学校生活に必要な日本語を学ぶワークショップを通し、保護者と子どもが日本の教育について理解を深め、親子で将来を見据えた将来設計ができるようにする。 ●外国にルーツを持つ親子が集える場を作り、同じような環境で学校生活を送っている親子と情報を共有する。									
取組の内容		●経験者（母親や子ども）から就学・進学を含めた学校生活に必要な情報や経験談を話してもらい、日本の学校生活についての理解を深めた。 ●作成したチャートを使って、親子や家族で考えるワークショップを行い、将来についての具体的なイメージづくりをした。 ●入学前の準備物についてレリアアを使って説明し、就学準備に必要な日本語を覚えた。 ●日本語がまだ十分でない保護者のために、翻訳資料を利用して説明した。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		豊岡市教育委員会から豊岡市内の全ての幼保園、小中学校にワークショップの周知をしてもらった。 学校制度は国によって違いがあるので、学校や地域の日本語教室が連携をより深め、支援にあたるようにする。									
取組による日本語能力の向上		学校行事、教育用語、持ち物、あいさつなどの言葉、連絡の仕方などを学んだ。 但馬地域の高校について知識を深めた。 進学や受験に出てくる専門的な言葉の意味を理解することができた。									
参加対象者		外国にルーツを持つ母親とその子ども及び家族					参加者数 (内 外国人数)		15人(7人)		
広報及び募集方法		チラシの送付・掲示、電話案内、ホームページ・フェイスブックでの告知									
開催時間数		総時間 3時間					内訳 3時間 × 1 回				
主な連携・協働先		各市町、豊岡市教育委員会、あさご日本語教室、やぶ日本語教室、とよおか日本語教室、香美町日本語広場マルカル、新温泉町にほんご広場ハピタン									
受講者の出身 (ルーツ)・国内別 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	3			1					4	7	
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和2年2月9日(日) 13:30～16:30	3	あいいうお教室	15	将来に向けて 母親と子どもが 笑顔で取り組む ワークショップ	日本の学校についての理解を深め、親子で将来について考える	河本美代子 近藤厚子	勝間良枝、卯野敦子 近藤麻理、津山美穂子			

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【令和2年2月9日(日)午後1時30分～午後4時30分】
 スライドと翻訳資料を見ながら、日本の学校についての基礎知識を学んだ。
 準備物のリストとレリアアを見ながら、入学準備に必要な言葉を覚えた。
 取組2で作成した「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を利用し、但馬地域の高校や入試のための準備などについて学んだ。
 中学生の時に来日し、あいいうおの支援を受け、高校に入学した中国人の女生徒に体験談を聞いた。
 子どもの進路について相談したり、子育ての不安や疑問などについて話し合ったりした。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・レシアアと翻訳資料を利用し、購入場所、名前の書き方など、できるだけ具体的に情報を提供することで、入学準備がスムーズにできるようになった。
- ・「当たり前だと思っていたことが、日本と外国では違うということに気が付いてびっくりした」という声があった。
- ・昨年に続き参加してくれた人から、「ここで勉強した言葉を実際に学校で聞いた。その時はわからなかったけど、資料を見たらわかったのよかった。」と言う声があった。
- ・実際に日本で受験を経験した外国にルーツを持つ子どもが体験談を話すことで、高校進学までの過程を具体的にイメージすることにつながった。
- ・保護者と子どもが一緒に参加したことで、将来についての具体的なイメージを共有することができた。

(3) 今後の改善点について

- ・日本の学校について学ぶ必要性を外国にルーツを持つ保護者や子どもに伝えるように周知したい。
- ・参加できなかった人々には別の機会を設け、情報を提供できるようにしたい。
- ・セミナー対象者が誰なのか、チラシからはわかりにくいという指摘があったので、セミナー対象者をはっきりしたチラシに改善したい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

但馬地域在住の外国にルーツを持つ母親と子どもが安心して暮らしていけるよう、地域における日本語教育の支援体制を整備する。また、その必要性を行政、教育現場、地域住民に理解してもらい、多文化共生のまちづくりを推進する。更に、たじま多文化共生ネットワーク(平成29年度文化庁委託事業:但馬地域3市2町在住外国人担当課と日本語支援団体のネットワーク)を活用し、市町の枠を超えて連携することで、日本語学習の機会の提供と支援体制の構築を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

近年外国にルーツを持つ子どもの数が増えており、子どもへの支援はもちろん、その保護者に対する支援の必要性が高まっている。子育て支援には様々な分野の人が関わり、継続した支援を行う必要がある。子育てネットの4つの取組を通して、日本語支援者と行政、学校、地域がつながり、相互の情報共有や協力ができるようになったのではないと思う。運営委員会やたじま多文化共生ネットワーク会議で課題を共有することができた。そして、その内容を取組3のセミナーや取組4のワークショップに反映させた。保護者の思いや意見を活かして、取組2の子育てチャート作成や取組4のワークショップにつなげた。今後も運営委員会やたじま多文化共生ネットワーク会議を継続していくという合意を得た。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・運営委員会とネットワーク会議を通じて、全ての取組を但馬地域3市2町へ発信することができた。
- ・日本語支援団体と協力して「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を作成することで、外国にルーツを持つ子ども支援に対する認識と必要性を共有することができた。
- ・多文化共生セミナーを豊岡市と共催することで市職員の理解が深まった。
- ・外国にルーツを持つ子どもの担任が多文化共生セミナーに参加したことで、外国にルーツを持つ子どもの支援において共有できることが増えた。
- ・教育委員会と連携することで、校長会を通じて豊岡市内全ての幼稚園、小中学校に、ワークショップの案内・周知をすることができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

(周知・広報)
・全ての取組:チラシの送付・掲示、電話案内、ホームページ・フェイスブックでの告知
・取組1.3.4:チラシの当法人の送付
・取組3:新聞掲載
・取組3.4:豊岡市教育委員会から豊岡市内すべての幼稚園、小中学校に配布
(事業成果の発信)
・すべての取組についてホームページ、フェイスブックでの案内及び報告
・取組2「但馬地域における子育て(就学・進学)チャート」を但馬地域の日本語教室及び外国人担当課、教育委員会に配布し、より多くの外国人住民に届くようにした。

(5) 改善点、今後の課題について

但馬地域における子育て(就学・進学)チャートを作成したことによって日本の教育のことや進学について可視化できるようになったが、実際にはそれだけでは解決できないものが多い。高校を選ぶにあたってはもう一歩踏み込んだ情報提供が必要になってくるため、その内容や伝え方を吟味する必要がある。外国にルーツを持つ子どもの支援は子どものバックグラウンドが異なるため、子どもに必要とされる支援も異なる。ひとり一人に合わせたきめ細やかな対応をしていく必要がある。そのため、支援者同士が情報を共有し、また、学校とも連携をして、支援にあたる必要がある。外国人住民に対する誤解や偏見が地域の中にはまだある。より多くの地域住民に外国人住民のことを理解してもらい、地域で共生していけるように今後もセミナーを開催したり、情報を発信したりしていきたい。